

富士山1号墳の甲冑一式の発見について

—富士山1号墳出土の冑かぶと 続報—

富士山1号墳は、令和2年度から保存目的調査を開始し、令和7年度の第5次調査にて、埋葬施設ならびに副葬品である冑を発見しました。冑は令和8年度から、公益財団法人

元興寺文化財研究所に委託し、保存処理を実施しています。この保存処理の過程で、冑のほ

かに、甲よろい（短甲たんこう、肩甲かたよろい、頸甲あかべよろい）が発見されました。

1 富士山1号墳発掘調査について

- ・富士山1号墳発掘調査の目的、経過の概要等（別紙1）

2 冑の保存処理状況について

- ・短甲、肩甲、頸甲、三尾鉄さんびてつの確認（別紙2）

3 短甲、肩甲、頸甲、三尾鉄について

- ・各部位の説明、甲冑一式の三重県内出土例（別紙3）

4 富士山1号墳の調査成果と今後の予定

- ・これまでの調査成果、甲冑一式の今後の取り扱い、今後の発掘調査等の予定（別紙4）

（参考）公益財団法人 元興寺文化財研究所からのコメント

鈴鹿市 文化スポーツ部 文化財課 課長 山中 尚美

担 当 文化財課 発掘調査 GL 真弓 真紀

調査担当 文化財課 発掘調査 G 岡 紗和子

電 話 059-374-1994（考古博物館内） 382-9031（文化財課）

F A X 059-374-0986

ふじやま 富士山 1 号墳発掘調査の経過

1 発掘調査の目的

富士山 1 号墳の規模や年代、構造等を明らかにし、鈴鹿市の史跡として指定できるかどうかを判断する

2 発掘調査の経過

・令和元年度 河曲地区地域づくり協議会による竹の伐採

・令和 2 年度 事前調査

現況図作成 → 54m前後の^{ほたてがい}帆立貝式前方後円墳と推定

・令和 3 年度 第 1 次調査

トレンチ 1～3 → ^{つくりだし}造出の発見、^{ふきいし}葺石・^{はにわ}埴輪あり、2 段築成、馬蹄形の^{しゅうごう}周濠

※現地説明会開催 (R3. 12. 11)

・令和 4 年度 第 2 次調査

トレンチ 4～6 → 造出で埴輪列の中央から^{とうしつ}陶質土器 (須恵器か) 出土

後円部南の盛り上がり (^{りくきょう}陸橋か?) は後世の盛り土と判明

※現地説明会開催 (R4. 12. 10)

・令和 5 年度 第 3 次調査

トレンチ 7・8 → 全長 55.7m と判明、前方部北東隅を特定

・令和 6 年度 第 4 次調査

トレンチ 9・10 → 北側のくびれ部を特定、後円部上段の直径 25.4m、テラス幅 2.5m 前後と確認

・令和 7 年度 第 5 次調査

トレンチ 11～13 → ^{ねんどかく}粘土槨の埋葬主体を検出、^{こざねびょうどめしょうかくつきかざと}小札鉾留衝角付冑出土、北側にもう 1 基あるか

※現地説明会開催 (R8. 3. 14)

・令和 8 年度 第 6 次調査 (現在継続中)

トレンチ 11～13 → トレンチ 11・12 で葺石を検出、後円部テラスと前方部上面が地続きと推定

埋葬主体の調査を継続中 (粘土槨の内部構造、北側の埋葬施設の有無)

3 基礎情報（令和8年9月18日現在の知見）

- ・時 期：5世紀後半（古墳時代中期後半）
- ・所在地：鈴鹿市国分町字富士山越
- ・墳 形：帆立貝式前方後円墳（造出付き）
- ・規 模：全長 55.7m（各部位の推定規模：前方部の長さ 18m、幅 28m、高さ 1 m、
後円部の直径 38m、高さ 6 m）
- ・葺 石：あり
- ・築 成：二段
- ・周 濠：馬蹄形
- ・主な出土遺物：円筒埴輪、朝顔形埴輪、形象埴輪か、陶質土器か、須恵器、土師器、
小札鋳留衝角付冑、三尾鉄、横矧板鋳留短甲、肩甲、頸甲

4 指導委員

- おざわ つよし 小澤 毅（三重大学 名誉教授・鈴鹿市文化財保護審議会委員・三重県文化財保護審議会委員）
きしもと なおふみ 岸本 直文（大阪公立大学 教授）
ながとも ともこ 長友 朋子（立命館大学 教授）

5 既刊の印刷物

- ・速報展パンフレット
「発掘された鈴鹿」2020～2025（6年分）
- ・現地説明会資料
富士山1号墳第1次発掘調査 現地説明会資料（R3.12.11）
富士山1号墳第2次発掘調査 現地説明会資料（R4.12.10）
富士山1号墳第5次発掘調査 現地説明会資料（R8.3.14）
- ・発掘調査概要報告
『鈴鹿市考古博物館年報』第23～27号（5年分）

冑の保存処理状況について

1 保存処理期間 令和8年4月15日から令和9年3月23日（予定）

2 保存処理委託先 公益財団法人 元興寺文化財研究所

3 保存処理状況

- ・養生状態から梱包材を解体後、土取り作業を実施
- ・土取り作業の結果、冑のほかにも短甲、肩甲、頸甲、三尾鉄が含まれていることを新たに確認

冑：頭頂部は欠損しているが、そのほかの部位ははっきりと残る

三尾鉄（冑の頭頂部に付属する板）の状態は良く、革紐等の有機物が非常に良好に残っていた

短甲：左前から左後胴の下部が残る

右半分はほとんど残っていない状態

よこはぎいたびょうどめたんこう
横矧板鉾留短甲という種類であることが判明

肩甲：頸甲と接着した状態で確認

肩甲を構成する板の枚数は12枚と平均的な枚数

頸甲：肩甲と接着した状態で確認



甲冑一式（公益財団法人 元興寺文化財研究所 提供）



小札鋳留衝角付冑（公益財団法人 元興寺文化財研究所にて撮影）



三尾鉄（公益財団法人 元興寺文化財研究所にて撮影）



短甲（公益財団法人 元興寺文化財研究所にて撮影）



肩甲・頸甲の一部（公益財団法人 元興寺文化財研究所にて撮影）

短甲、肩甲、頸甲、三尾鉄について

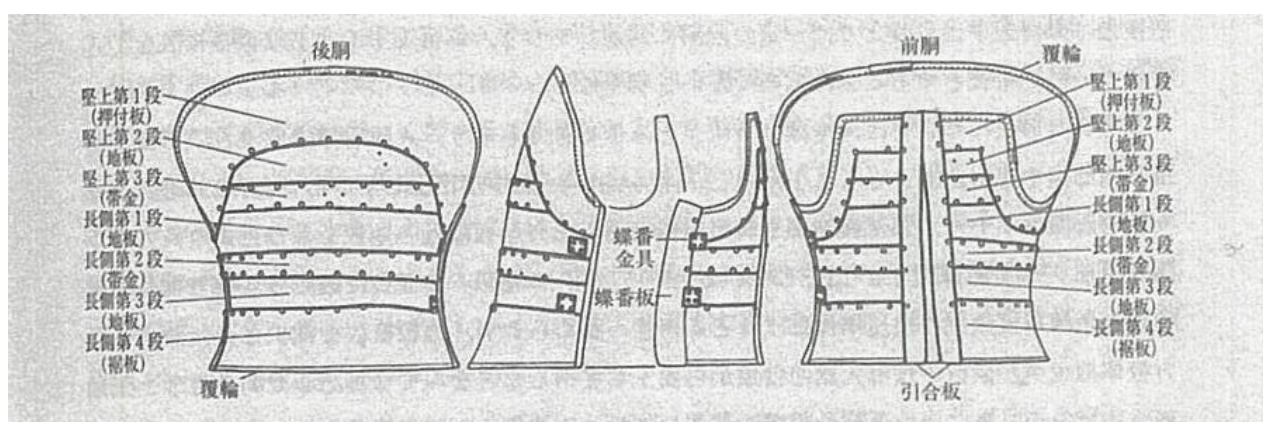
1 横矧板鉾留短甲とは

- ・胴体を防護する鉄製の武具の一つ
- ・5世紀中頃に出現し、5世紀末まで続いたとされる
- ・5世紀後葉以降→省力化がすすむ特徴あり（帯金が幅広化、大きな鉾の使用、鉾数の減少）

【名称の由来… 素材 + 綴じ方】

横矧板…横長の板

鉾留…部品同士を同じく鉄製の鉾でつなぐ方法のこと



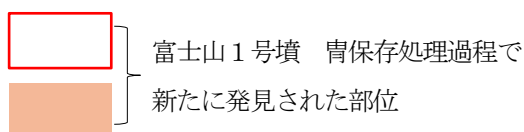
鉾留短甲の模式図（滝沢 誠 1991「鉾留短甲の編年」『考古学雑誌』第76巻第3号 日本考古学会より引用）

2 肩甲、頸甲とは

- ・甲冑の付属具
- ・首回りとその前後を頸甲、肩から上腕までを肩甲が覆う

3 三尾鉄とは

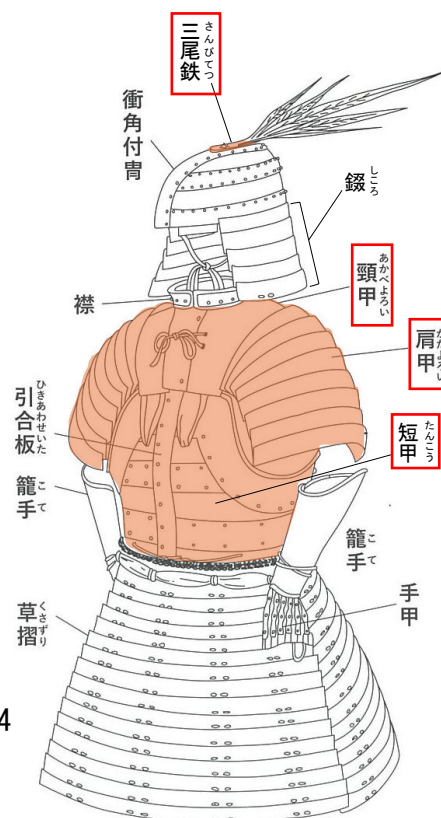
- ・冑の頭頂部に付属する鉄製品
- ・3本の枝が尾のように付く。枝先には鳥の尾や植物などを取り付け飾ったと推測されている



甲冑一式模式図（奈良県立橿原考古学研究所 2024

『甲冑 - 古墳時代の武威と技術 - 』

奈良県立橿原考古学研究より引用）（一部加筆）



4 三重県での出土例

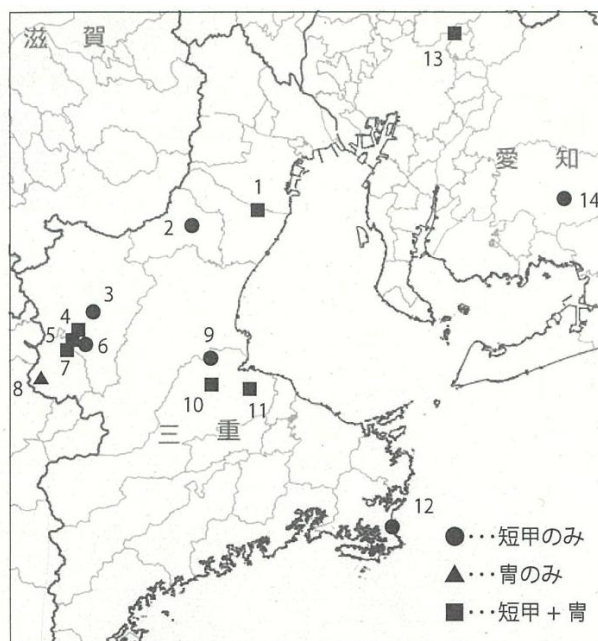


図1 三重県の帯金式甲冑出土古墳の分布（縮尺任意）

鈴木一有 2005 に三重県の増加分を加筆

表1 東海地方における甲冑出土古墳

鈴木一有 2005 に三重県の増加分を加筆

番号	古墳名	所在地	墳形	規模(m)	埴輪	甲	冑	頸甲	肩甲	付属具
1	富士山1号墳	三重県鈴鹿市国分町	造出付帆立貝式	55.7	○	横刳板鉄留短甲	小札鉄留衝角付冑	○	○	
2	大垣内古墳	亀山市山下町	円墳	20	×	横刳板鉄留短甲				
3	石山古墳（東柳）	伊賀市才良	前方後円墳	120	○	長方板革綴短甲				
4	近代古墳	伊賀市上神戸	前方後円墳	30	○	三角板鉄留短甲	三角板革綴衝角付冑	○	○	
5	わき塚古墳	伊賀市上神戸	方墳	23	○	長方板革綴短甲	三角板革綴衝角付冑	○	○	草摺？
6	中出八王子社古墳	伊賀市上神戸	？	？	？	破片のみ				
7	カブト塚古墳	名張市	方墳	50	○	三角板鉄留短甲	鉄留衝角付冑			
8	琴平山古墳（後円）	名張市赤目町	前方後円墳	70	？		縦刳板鉄留付冑			
9	小谷13号墳	松阪市嬉野天花寺	円墳	16	○	三角板鉄留短甲				
10	八重田16号墳	松阪市日丘町	方墳	16	○	三角板鉄留短甲	小札鉄留眉庇付冑	○	○	
11	佐久米大塚山古墳	松阪市佐久米町	前方後円墳？	？	？	短甲	小札鉄留眉庇付冑			
12	おじょか古墳	志摩市阿児町	円墳？	17？	○	鉄留短甲				
13	志段味大塚古墳	愛知県名古屋守山区	前方後円墳	52	○	挂甲	鉄留衝角付冑		○	籠手
14	経ヶ峰1号墳	岡崎市丸山町	前方後円墳	35	○			○	○	
15	（伝）岡崎	？	？	？	？	横刳板鉄留短甲				
16	薬師古墳		円墳	24	×				○	
17	龍門寺1号墳	岐阜県岐阜市長良	円墳	17	○	長方板革綴短甲		○	○	
18	中八幡古墳	揖斐郡池田町	前方後円墳	43	○	三角板鉄留短甲				
19	砂行1号墳	関市のぞみヶ丘	円墳	22	×	革綴短甲				
20	南青柳古墳	関市下有知	円墳	20	×	横刳板鉄留短甲				
21	狐塚古墳	静岡県浜松市北区	円墳	13	○	長方板革綴短甲				
22	千人塚古墳	浜松市有玉西町	円墳	49	○	三角板革綴短甲	三角板革綴衝角付冑	△	△	
23	土器塚古墳	磐田市中泉・国府台	円墳	36	×	長方板革綴短甲				
24	安久路2号墳	磐田市西貝塚	円墳	26	×	長方板革綴短甲	三角板革綴衝角付冑			
25	安久路3号墳	磐田市西貝塚	円墳	27	○	長方板革綴短甲			△	小札
26	五ヶ山B2号墳	袋井市浅名	方墳	33×28	○	三角板革綴短甲	三角板革綴衝角付冑	○	○	草摺？
27	石ノ形古墳	袋井市国本	円墳	27	○	横刳板鉄留短甲				
28	文殊堂11号	周智郡森町	円墳	18	×	三角板革綴短甲				
29	林2号墳	周知郡森町	円墳	16	×	三角板革綴短甲				
30	（伝）幕ヶ谷	？	？	？	？	革綴短甲				
31	各和金塚古墳	掛川市各和	前方後円墳	62	○	三角板革綴短甲	三角板革綴衝角付冑	○	○	
32	南沼上3号墳	静岡市清水区	円墳	16	×	三角板革綴短甲	三角板革綴衝角付冑			
33	多田大塚2号墳	伊豆の国市菰山	円墳	16	×	横刳板鉄留短甲				
34	多田大塚4号墳	伊豆の国市菰山	円墳	20	×	横刳板鉄留短甲				

富士山 1 号墳の調査成果と今後の予定

1 これまでの調査成果

- ・全長 55.7m と周辺地域で格段に大きい規模を誇る
- ・典型的な前方後円墳ではなく帆立貝式であるものの、造出をもつ
- ・造出に朝鮮半島南西部（馬韓・百済辺りの地域）に由来する陶質土器（須恵器か）を供献している
- ・出土した埴輪や須恵器、冑などの遺物の特徴や馬蹄形の周濠や葺石を持つ構造などから、5 世紀後半の築造と推定できる
- ・埋葬主体が未盗掘であり、粘土で棺を囲う方法（粘土槨）を採っている
- ・甲冑一式（小札鋳留衝角付冑、横矧板鋳留短甲、肩甲、頸甲）を副葬している

⇒ 鈴鹿川下流域における 5 世紀後半の有力首長

※ 今後の調査を通して、大和朝廷（大和政権）との関わりや武人等の詳細を検証していく

2 今後の予定

（1） 冑、三尾鉄の保存処理

令和 8 年度事業として公益財団法人 元興寺文化財研究所に委託し実施中
三尾鉄は分析を実施。枝先に取り付けた飾りや、革紐の成分に関する情報が得られる可能性あり

※ 1 年程度かかる見込み。その後、改めて公開いたします（日程未定）。

（2） 短甲、肩甲、頸甲の保存処理

令和 9 年度以降の事業として実施予定

※ 1 年程度かかる見込み

（3） 今後の発掘調査等の予定

- ・令和 8 年度 第 6 次調査（令和 8 年 4 月 20 日から 10 月 31 日まで予定）
トレンチ 11～13 継続 → **埋葬施設の追求**、後円部と前方部の接続方法、後円部の直径
- ・令和 9 年度 第 7 次調査
トレンチ 14～15 → 南側くびれ部、前方部の北西隅 **※現地調査終了**
- ・令和 10 年度以降
整理作業 → **報告書刊行**
遺跡の**史跡指定**・出土品の**文化財指定**の可否判断

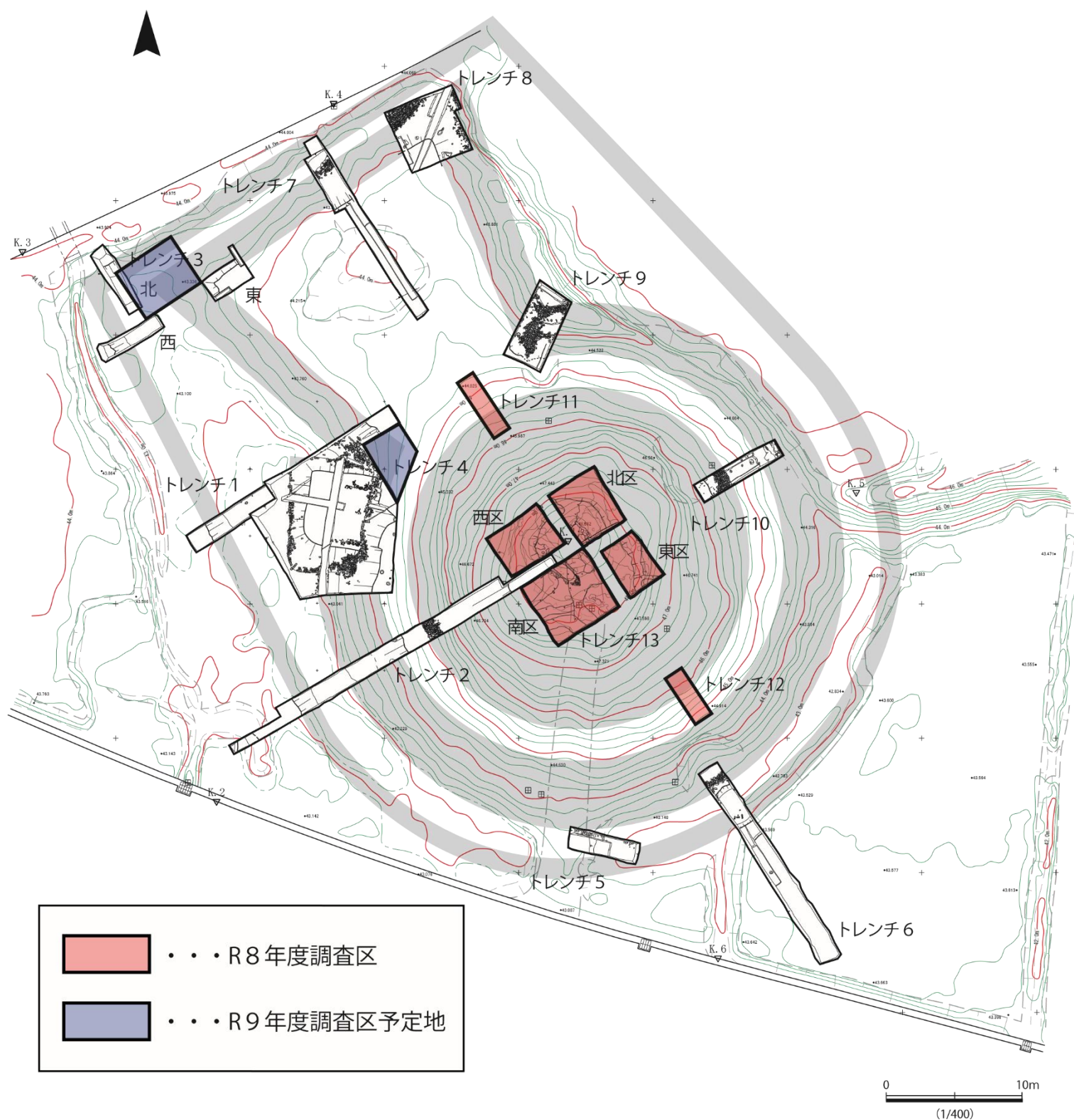


Fig. 1 富士山1号墳 調査区配置図 (1 : 400)

公益財団法人 元興寺文化財研究所
埋蔵文化財保存研究グループ 研究員
初村 武寛 氏 より

(以下、コメント文)

古墳時代の甲冑を副葬する際、胴部の甲である短甲の中に冑を入れ、頸甲・肩甲は短甲の上にのせる事例が多いが、富士山 1 号墳においては短甲の中に冑と頸甲・肩甲を入れるという特異な状況であったことに驚いた。

富士山 1 号墳の甲冑は、短甲の上半部が失われているが、もし頸甲・肩甲が短甲の上に置かれた状態であれば、短甲の上半部と同様に失われていたことになる。先の特異な副葬状況であったため、奇跡的に頸甲・肩甲が現存していることになる。

調査の結果、富士山 1 号墳の甲冑は小札鉾留衝角付冑、三尾鉄、鋳、頸甲、肩甲、横矧板鉾留短甲で構成されることがわかった。三重県内でも類例のない甲冑セットになることに加え、三尾鉄・鋳などは既存の甲冑資料よりも遺存状況が良好であるなど、非常に重要な資料になる。

考古学的な位置づけについては、保存処理が完了し、甲冑の全容が見えてからになるが、公益財団法人元興寺文化財研究所ではこれら富士山 1 号墳より出土した甲冑を公の場で皆様にみていただけるよう保存処理を進めていく。